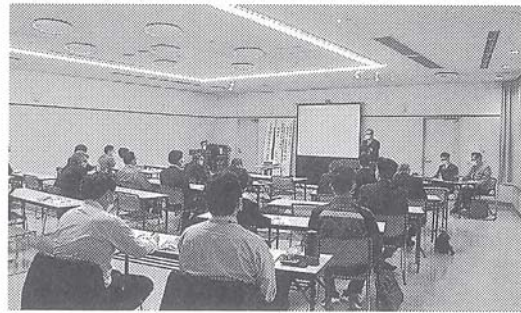


導入メリットなど明示

東北整備局、宮城県内地元
経営者向けICTセミナー

東北地方整備局は8日、宮城県内の地元中小企業の経営者を対象とするICT（情報通信技術）セミナーを開いた。写真。ICT活用を先行して取り組んでいるトップランナー企業として、渋谷建設（山形市）と泰昌建設（同）から講師を招いた。参加した約20人は、地域建設業にとっての導入メリットや投資に至った経緯などを学んだ。

冒頭、東北整備局企画部



の布宮明道施工企画課長は「ICT活用が低迷している企業の背景には、メリットが見えない、経営者が導

入を判断できないなどの見方がある」と指摘。その上で「地域に根差した皆さんによる活用が進まなければ建設業の生産性向上は望めない。本セミナーが導入のきっかけになればと願っている」とあいさつした。

渋谷建設の柿崎洋取締役工務管理部長は、同社が受注した「旧北上川右岸南浜地区築堤工事」（2021年3月竣工）の現場で使用したICT建機やソフトウェア、初期投資費用などを解説。「一度内製化することで費用の持ち出しはなくなり、人員削減、時間短縮

になる」と導入メリットを語った。

泰昌建設の澁谷和取締役は企業経営の観点から、「ICT推進には経営トップが方向性を打ち出すことが必須だ」と強調。「デジタル化は時代の流れで、今後避けては通れない。遅れば遅れるほど対応に負荷がかかる」と早期導入の必要性を説いた。

東北整備局は、14日にも地元経営者向けICTセミナーを山形県鶴岡市の鶴岡商工会議所で橋本店（仙台市青葉区）から講師を招いて開催する予定だ。